

第1章 小千谷都市計画マスタープランとは

1. 計画の目的と役割

(1)小千谷都市計画マスタープランの目的と役割

- ・小千谷都市計画マスタープラン（以下「本計画」という。）は、都市計画法第18条の2「市町村の都市計画に関する基本的な方針」に基づいて定める法定計画であり、主に以下のような役割を担います。

①目指すべき具体的な都市の将来像を明らかにします

- ・都市の活力の維持・向上を図りつつ、いつまでも住み続けたいと思える魅力ある小千谷市を創造するため、目指すべき都市の構造や将来像、都市整備の方向性、ソフト施策を含めたまちづくりの基本的な方向性を明らかにします。

②具体的な都市計画の決定・変更の指針となります

- ・土地利用の規制・誘導や道路、公園等の都市施設の整備などについて、あるべき方向性を示し、具体の都市計画の決定・変更の際の指針となります。

③個別の都市計画やまちづくりに関する分野間の相互調整を図ります

- ・土地利用や都市施設、市街地開発などの都市計画に関する分野だけでなく、自然環境保全や景観形成、防災などのまちづくりに関する個別分野の計画との相互調整を図ることにより、一体的・総合的なまちづくりを推進します。

④市民・団体・事業者の合意形成を図り、協働のまちづくりを推進します

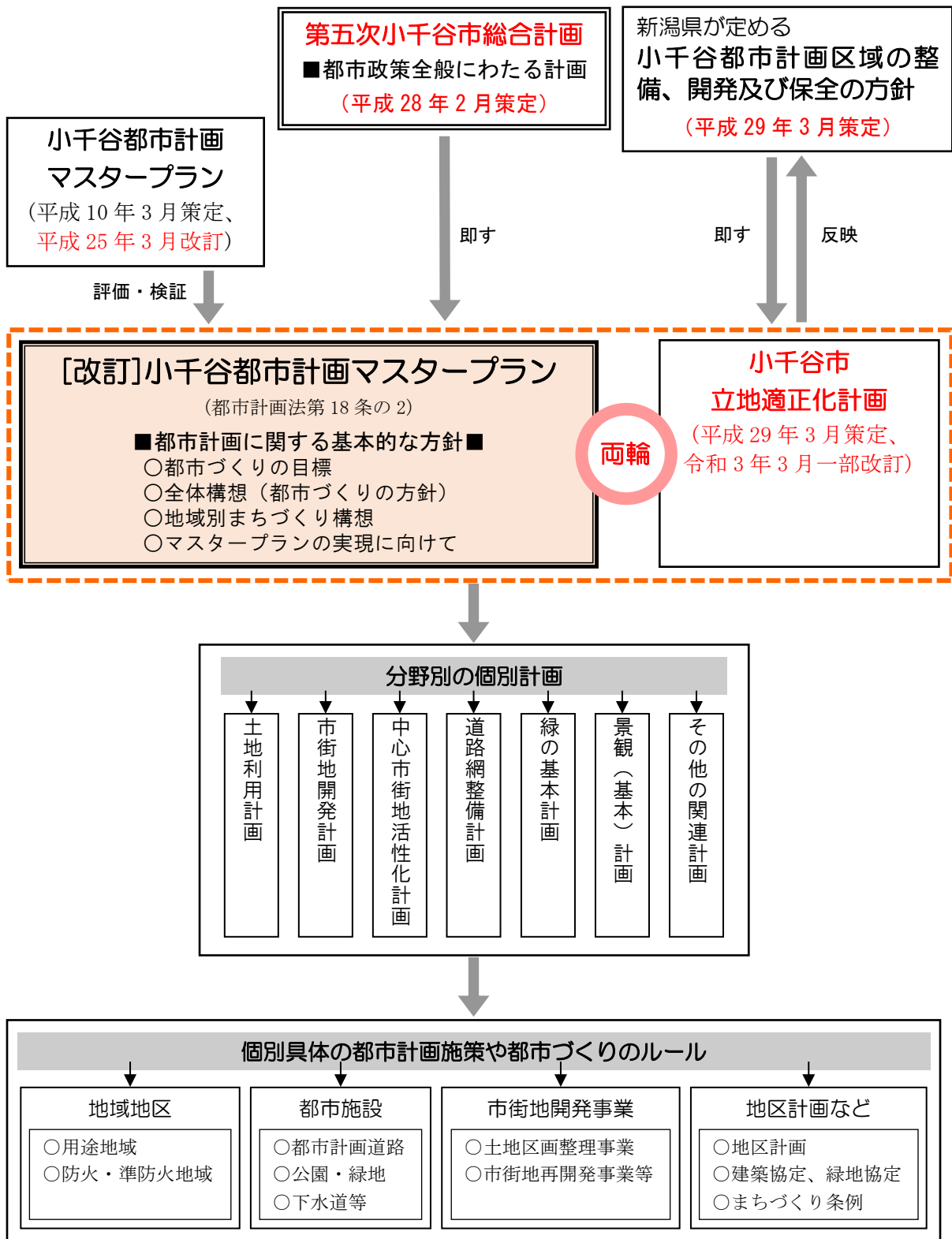
- ・これからの時代においては、市民・団体・事業者がまちづくりに積極的に関わっていくことが重要です。まちづくりの考え方を市民・団体・事業者が共有することで、事業や施策への合意形成を容易にするとともに、まちづくりへの主体的な参画を推進します。

(2)改訂の背景

- ・「小千谷都市計画マスタープラン」は平成10年3月に策定し、その後、本市の最上位計画である「第四次小千谷市総合計画」の内容に即した見直しを行うため、平成25年3月に「〔改訂〕小千谷都市計画マスタープラン」を策定しました。
- ・昨今、人口減少社会や少子高齢化の進展、コンパクトなまちづくりの推進、地球温暖化の進行、大規模な自然災害の発生、生活の質に対する市民ニーズの多様化、デジタル化の進展など、取り巻く環境が大きく変化してきました。
- ・今回の改訂は、上位計画である「第五次小千谷市総合計画」や「新潟県小千谷都市計画区域マスタープラン」等の内容に即した見直しを行うとともに、厳しい社会経済情勢にある中で、本市特有の自然や歴史・文化・地域産業・コミュニティなどを生かした誇りのもてるまちづくりを進めていくために、必要な見直しを行うことを目的としています。

(3)小千谷都市計画マスタープランの位置づけ

- ・本計画は、「**第五次小千谷市総合計画**」や新潟県が定める「小千谷都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（新潟県小千谷都市計画区域マスタープラン）」の上位計画に即しながら定めます。
- ・土地利用計画や道路網計画等の分野別の計画は、本計画と整合を図りながら定められ、これらに基づいて個別具体の事業や施策が実施されることとなります。



◇ 小千谷都市計画マスタープランの位置づけ ◇

2. 計画の基本的事項

(1) 計画の構成

・本計画は、以下のような内容で構成しています。

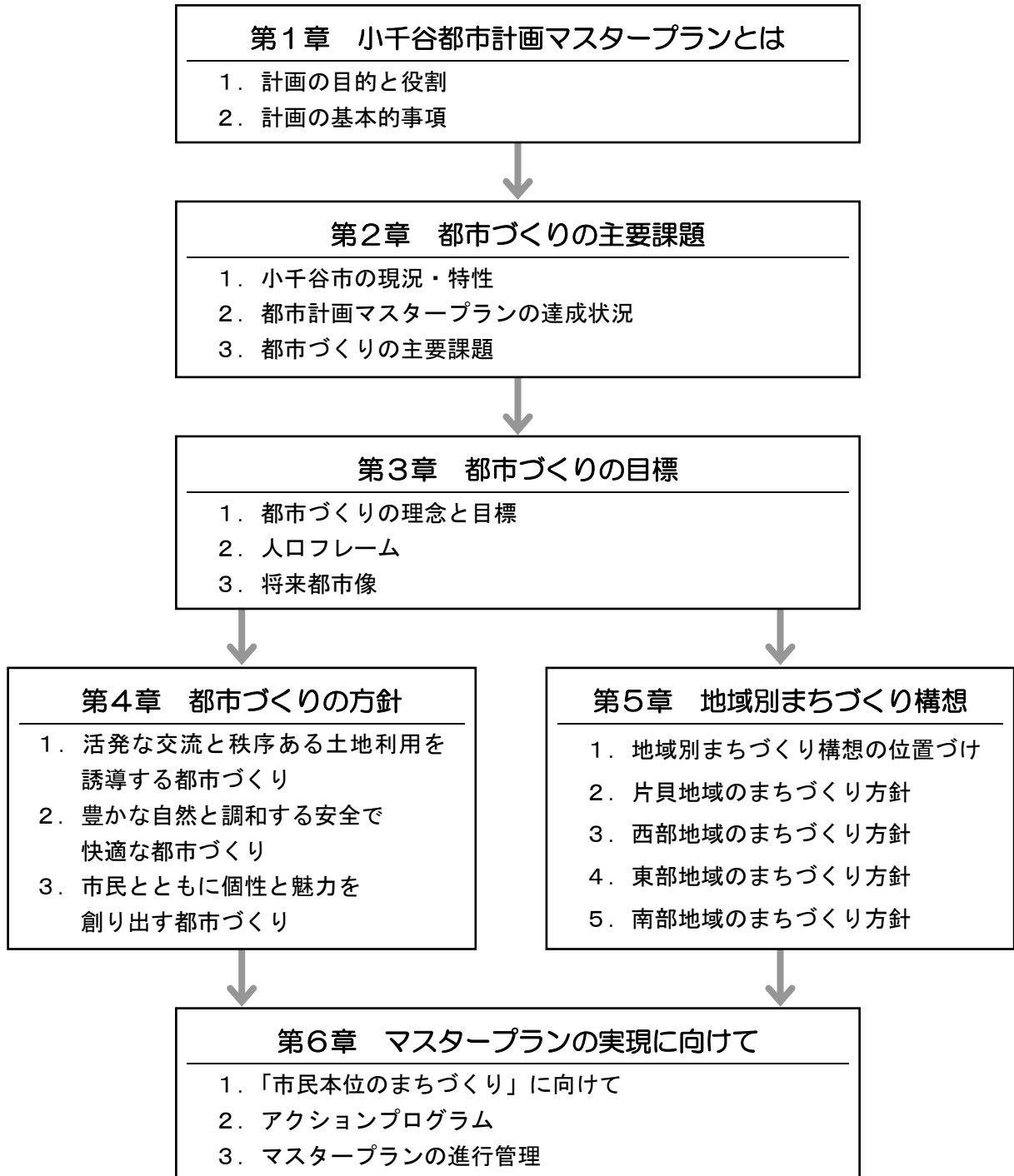


図 小千谷都市計画マスタープランの構成

(2)計画の基本的事項

①対象区域

- ・都市計画分野に限らず、幅広い観点でまちづくりを捉え、市民・団体・事業者と行政の協働による地域づくりを総合的に推進するため、本市全域を計画の対象とします。

②目標年次

- ・平成 22 年度を基準年とし、長期的な視点でまちづくりを考えるため、概ね 20 年後の令和 12 年度を目標年次として定めます。

(3)計画の策定（改訂）にあたって特に配慮する視点

①あらゆる社会情勢に対応した都市整備や都市環境のあり方を検討します

- ・本格的な人口減少社会を迎え、本市では人口減少や少子高齢化が進展し、今後は加速的に進むことが予測されます。
- ・人口減少や少子高齢化の進展に伴い、社会保障費や道路の維持管理費などの行政コストの増加、生活サービスの維持の困難性や高齢者の免許証返納等による移動手段の確保の問題など、従来の都市づくりやまちづくりでは、都市の持続性に影響を与えることが懸念されます。
- ・また、地球温暖化の進行やそれに伴う大規模災害の激甚化・頻発化により、市民の安全安心に対する意識も高まっています。
- ・このため、人口減少を確実なものとして認識し、「選択と集中」や「集約型都市構造」の考えに基づきながら、安全安心に住み続けられる持続可能な都市づくりのあり方を検討します。

②市民・団体との協働による都市づくり・まちづくりのあり方を検討します

- ・人口減少社会、超高齢社会にあって、市民生活の安全性や快適性を高めていくためには、地域のコミュニティが重要な要素の一つとなります。
- ・また、厳しさを増す財政状況にあって、市民のニーズに的確に対応した都市づくり、地域に根差したきめ細かなまちづくりを進めるためには、市民が都市づくり・まちづくりに関心をもち、一緒になって取り組んでいくことが不可欠です。
- ・このため、市民が誇りと愛着をもちながら、いつまでも安全で快適に住み続けられるまち、誰もが住みたいと思えるまちの創造を目指して、市民・団体・事業者との協働による都市づくり・まちづくりのあり方を検討します。

③小千谷の個性を将来に引き継ぐ都市づくり・まちづくりのあり方を検討します

- ・本市では人口減少や少子高齢化が進展していることから、賑わい創出や都市の魅力づくりにより、若者の市外への流出抑制、関係人口や交流人口の増加、移住定住の促進を図ることも重要です。
- ・本計画は、長期的な視点から小千谷市のあるべき姿を描くものですが、「小千谷らしさ」や「個性」が失われることがないように、魅力ある都市づくりやまちづくりのあり方を検討します。